

舞台音響と客席配置が一新された大ホール＝多治見市十九田町、バロー文化ホール



バロー文化ホール一新

改修完了 舞台音響、客席配置を見直し

バロー文化ホール(同市十九田町)の大規模改修工事が終わり、26日に工事関係者ら約150人を招いた内覧会が開かれた。ホールの舞台音響や客席の配置を一から見直し、新たな文化施設に生まれ変わった。

(稲木修司)

同館は1981年に竣工。目標使用年数80年の中間時期を迎えたことを機に、市が今年4月から総事業費約17億6千万円をかけて全館を改修した。

大小二つのホールは快適性を高めた。総席数は93席減って1595席となったが、車椅子席を倍以上の計16席に増やし、一部の席を互い違いに置いて見えやすくした。照明と内装も手を加えた。他にグランドピアノ2台を部品単位で分解・点検したほか、大会議室の天井高を上げ壁を鏡張りにするなど、多くの設備を更

多治見市長「世界基準の施設」



改修工事を完了を記念して演奏するピアニストの古田友哉さん＝同

新した。

内覧会では、古川雅典市長が「世界基準をキーワードに改修した。一新した施設を皆で使いこなそう」とあいさつ。市出身のピアニスト古田友哉さんが、点検を終えたばかりのピアノで演奏すると、歓声が湧き拍手が送られた。

同館は市の「はたちの集い(旧成人式)」が開かれる来年1月8日に開館する。9日の午後1時～同4時には、一般向けの内覧会も開かれる。